

大すきな、じいじ

新見市立矢神小学校

二年 し 水 きさと

ぼくには、一人でくらしているじいじがいます。じいじの家によくとまりに行きます。

じいじは、クレールゲームがすきです。ぼくも、じいじみたいにたくさんとりたいのでじいじに、ボタンをおすタイミングを、

「今だ！」

と教えてもらってボタンをおすと、けいひんをとることができて、うれしかったです。

じいじは、朝早くおきます。なぜか、ぼくもじいじの家にとまると、次の日の朝は、早く目がさめてしまいます。じいじは、

「まだねときー。」

と言うけれど、もうねたくないの、じいじといろいろな話をします。その後じいじは、朝ごはんにたわらのおにぎりを作ってくれます。ぼくは、そのおにぎりが大すきで、四こぺろつとたべてしまいます。

そんなじいじは、ぼくが一年生の秋に、とつぜんたおれて入いんしました。でも、すぐに元気になるだろうと思っ

ていました。びょういんに行っても、小学生は会うことができず、八か月も会えませんでした。七月になってやつとじいじに会うことができたので、リハビリの手つだいをしました。右手は、動かすことができたので、ジャンケンをしました。帰るときには、バイバイと手をふると、手をふりながら、バイバイと言ってくれました。

ぼくは、七夕のたんぎくに「百年生きられますように。」とねがいをかきました。お母さんに、どうしてそれにしたのと聞かれて、じいじが早く元気になってほしいからとこたえました。でも、それは、かないませんでした。かなしくて、たくさんみだが出ました。じいじがいなくなることは、ぼくにとってありえなかったからです。じいじとまだあそびたかった。おにぎりをたべたかった。でも、こんどはぼくがおにぎりを作ってあげるね。じいじ見ていてね。